

23. 永原廃寺

調査地 野洲市永原字森下 1060 番

調査原因 個人住宅

調査期間 令和3年4月20日

1. 調査経過

永原廃寺は白鳳時代から鎌倉時代の集落跡、寺院跡と周知されている。古代寺院としての永原廃寺は採集された単弁一六葉蓮華文の軒丸瓦からその存在がうかがえるものの、発掘調査によって関連する遺構・遺物は確認されておらず、実態は不明な部分が多い。

今回の調査は個人住宅建設に伴う試掘調査で、敷地内の建物建築範囲に 4.0m × 2.0m、約 8.0m² の調査区を設定した。

2. 調査成果

地表面下約 1.1m まで掘削を行った結果、地表面下約 0.6m までは造成土（1 層）で、造成土の下に旧耕作土である灰黄褐色粘質土（2 層）、黒褐色粘質土（3 層）が堆積していた。

上記土層の下層、地表面下約 1.0m（標高約 88.0m）で遺構面明オリーブ灰色砂質シルト層（5 層）を確認した。遺構面は地山層を基盤としている。

遺構は性格不明の落ち込みを確認した。落ち込みの埋土は黒褐色砂質シルトで、深さは 20cm 程度である。

遺物は、落ち込みの埋土から弥生土器や土師器、須恵器などの土器が約 20 点出土した。

3.まとめ

今回の調査では、古代寺院に関連する遺構・遺物は確認できず、永原廃寺の実態の解明は今後の課題である。

(芦塚)

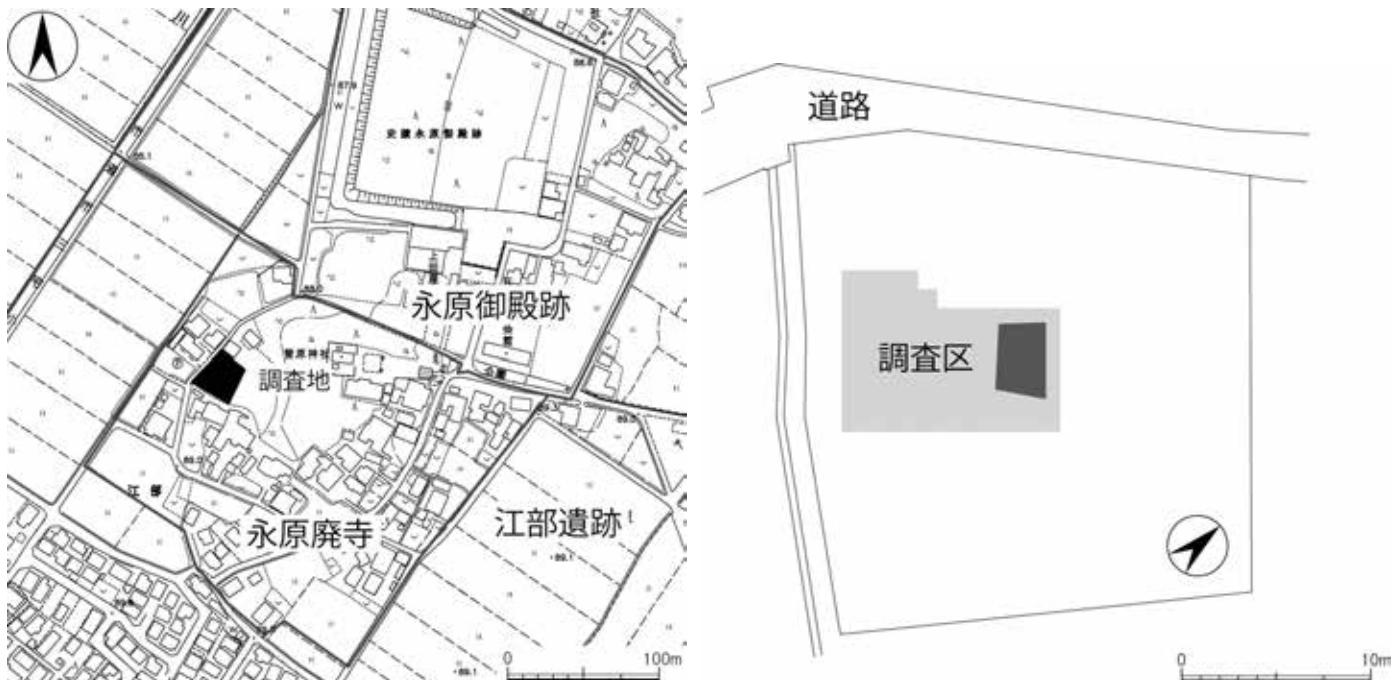
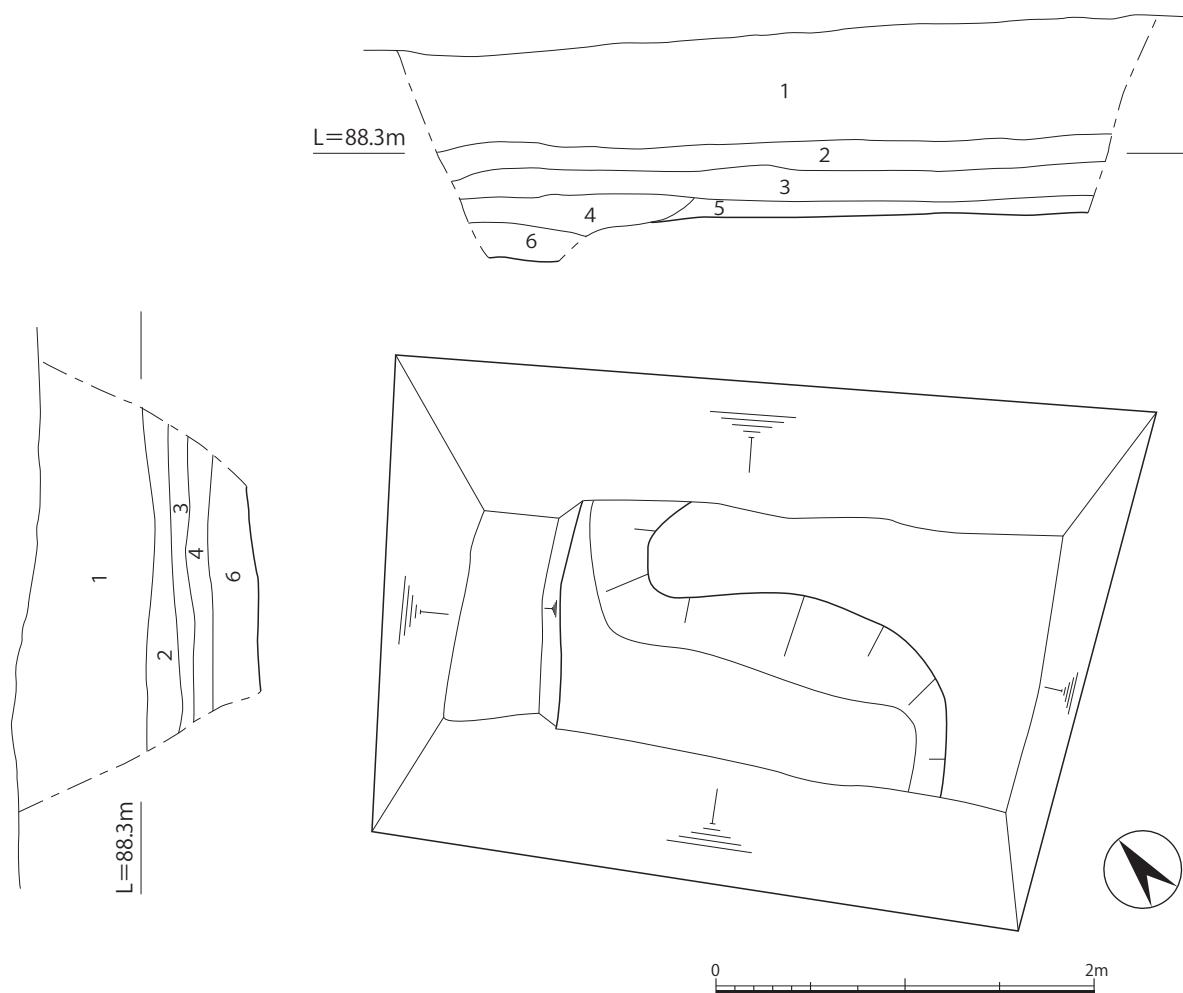


図1 調査地位置図・調査区配置図



1. 造成土 2. 灰黄褐色(10YR 4/2)粘質土(旧耕作土) 3. 黒褐色(10YR3/2)粘質土(旧耕作土)
4. 黒褐色(10YR3/1)砂質シルト(落ち込み埋土) 5. 明オリーブ灰色(5GY7/1)砂質シルト(地山) 6. 緑灰色(7.5GY6/1)シルト(地山)

図2 調査区平面図・土層断面図

23. 永原廃寺



調査区全景（南東から）



西壁土層断面



北壁土層断面

24. 比江遺跡

調査地 野洲市比江字中村畠 1283 番2

調査原因 個人住宅

調査期間 令和3年4月27日

1. 調査経過

比江遺跡は、弥生時代～江戸時代にかけての集落跡と周知されている。

今回の調査は個人住宅建設に伴う試掘調査で、敷地内の建物建築範囲に 3.0m × 2.0m、約 6.0m² の調査区を設定して遺構・遺物の有無の確認に努めた。

2. 調査成果

地表面下約 1.6m (標高 89.6m) まで掘削を行った。基本層序は地表面下約 0.4m までは盛土 (1 層) で、盛土の下には旧耕作土である灰色粘質土層 (2 ~ 3 層)、灰色砂層 (4 層) が続く。灰色砂層の下にはしまりのある暗オリーブ灰色砂層及びオリーブ灰色砂層が堆積していた。

この暗オリーブ灰色砂層 5 層及びオリーブ灰色砂層 (6 層) 上面が遺構面と判断されるが、精査の結果、遺構・遺物は確認できなかった。

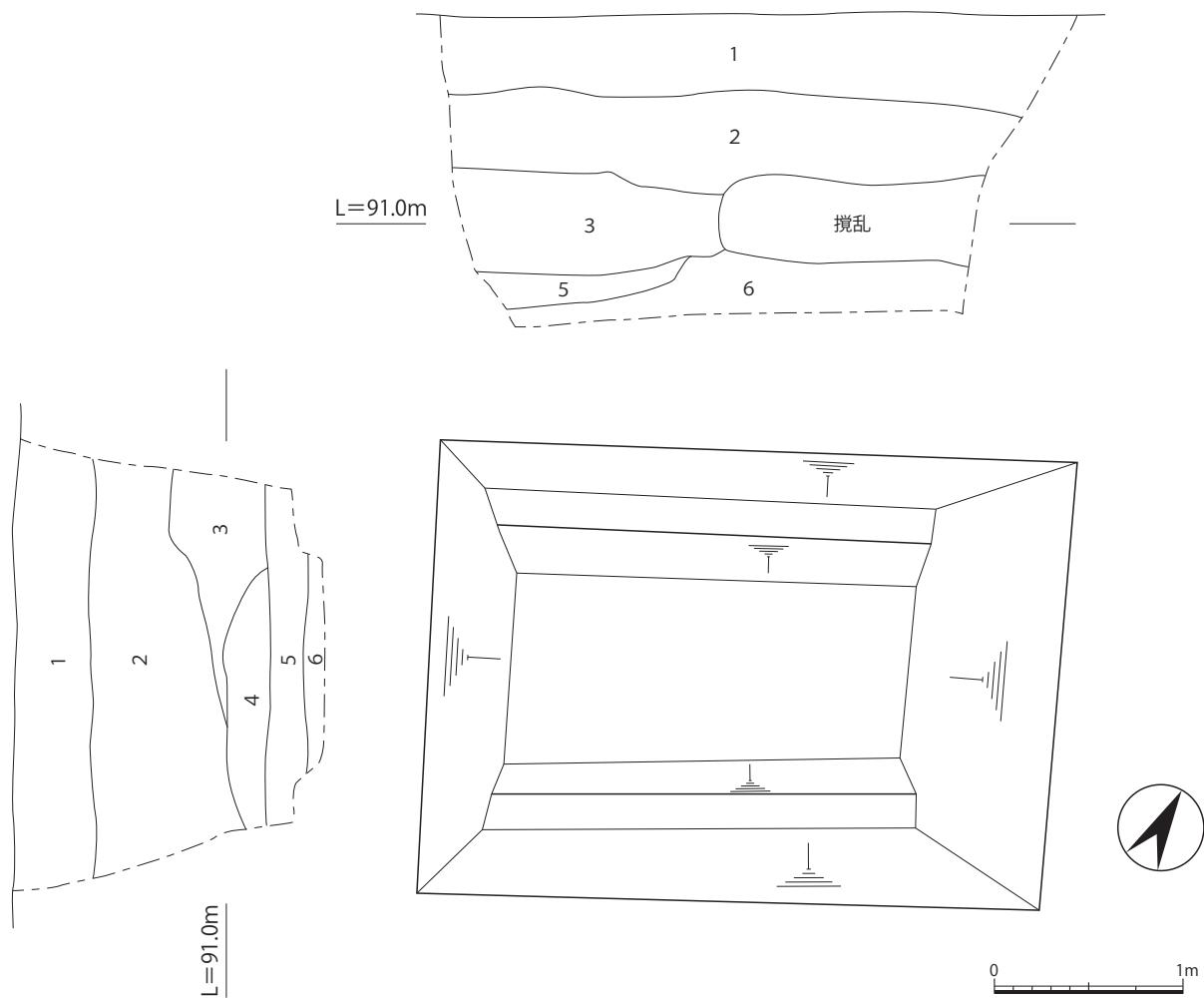
3. まとめ

本調査地は比江の集落が築かれる微高地からは少し離れた河川の近くに位置する。そのような立地条件と今回の調査成果を勘案すると、本調査地は比江遺跡の縁辺地と評価できる。
(芦塚)



図1 調査地位置図・調査区配置図

24. 比江遺跡



1. 盛土 2. 灰色(5Y4/1)粘質土(混入物が多い) 3. 灰色(7.5Y4/1)粘質土 4. 灰色(10Y5/1)砂 5. 暗オリーブ灰色(5GY4/1)砂
6. オリーブ灰色(2.5GY5/1)砂(しまりあり)

図2 調査区平面図・土層壁面図

